

# 平成 25 第 2 回定例会一般質問

1. **新病院移転後の患者動向と病院経営について**
  - (1) 新病院移転後の患者動向及び診療収益について
  - (2) 平成 24 年 11 月策定の収支計画「一般会計繰入金圧縮に向けた取り組み」の実行性について
  - (3) 地域医療連携室の役割について
  - (4) 市民ボランティア組織の立ち上げについて
2. **コンピュータオペレーティングシステム (OS) の 2014 年サポート終了の影響等について”**
  - (1) 全庁的な影響と対策について
  - (2) 市立根室病院新システムに 2014 年サポート終了となる OS を採用した理由と今後の対応について
  - (3) 情報システム構築・運用のためのチェック機能について
3. **新長期総合計画策定作業について**
  - (1) 第 8 期総合計画の検証作業について
  - (2) 新長期総合計画策定手法とこれまでの策定作業との違いについて
  - (3) 都市計画マスタープラン等各種計画とのリンケージについて
  - (4) 計画期間と社会・経済環境の変化への対応について

2013/06/19

根室市議会議員

本 田 俊 治

通告に基づき一般質問をさせていただきます。

はじめに、新病院移転後の患者動向と病院経営についてお伺いいたします。

一点目は、新病院移転後の患者動向及び診療収益についてであります。

新病院での診療がスタートして間もなく5ヶ月になります。正面玄関がまだ使用できず、眼科、整形外科待合の間が仮玄関へぬける通路になっており、まだまだ不便な状況が続いております。

また、仮玄関前の違法駐車や病院周辺の路上駐車などの問題、院内待合スペースの車椅子への配慮不足など中々解決できずにいる、サービス面の問題等々も非常に気になっているところですが、まずは、約5か月間の患者動向や診療収益が、どのような状況となったのか、分析可能な範囲で過去の同期比較を含め、実態についてお伺いいたします。

二点目は、平成24年11月策定の収支計画「一般会計繰入金圧縮に向けた取り組み」の実行性についてであります。

昨年、11月に策定された収支計画では、常勤医師15名体制を基に試算され、収支均衡を図るためには、平成25年度15億26百万円、平成26、27年度は16億49百万円もの一般会計繰出金が必要となる見込みが示されました。

その圧縮策としては、2次医療を担う急性期病院として、レベルの高い医療の提供に努め、診療単価を引き上げ、また、更なる診療体制の充実による患者増を掲げられたところですが、想定される医療の提供並びに診療単価引き上げの実行性という視点から、現状の診療体制をどの様に考えられているのか、また、今後、年度内にどのような体制整備を行わなければならないのか、一般会計繰入金圧縮の見通しも含めまして、市長のお考えをお伺いいたします。

三点目は、地域医療連携室の役割についてであります。

4月から新たな組織として地域医療連携室が設置され、専任の管理職も配置されましたが、この地域連携室の具体的な役割について、市長の見解をお伺いいたします。

四点目は、市民ボランティア組織の立ち上げについてであります。私も毎月、父の付添などで市立病院を利用しておりますが、新病院開院後、多くの職員が患者さんの誘導にあたって見ながら、市民によるボランティア組織があれば、職員も本来業務に専念でき、また、市民も自分たちの病院の運営に携わることで、真の市民病院として様々な改善ができるのではないかと、いつも感じております。

これまで何度か市民ボランティア制度の導入について提案もさせていただきました。

昨年6月議会での市長のご答弁は、「病院ボランティアの立ち上げに向け、4月から事務職が外来案内補助を開始し具体的にどのようなニーズがあるのかを検討、それを踏まえ、院内に検討委員会を設置し、新病院開院に先駆け実施できるよう検討する。」という内容でしたが、残念ながら実現できておりません。

現在、どのような状況になっているのか、現時点でのご見解をお伺いいたします。

次に、コンピュータオペレーティングシステム（OS）の2014年サポート終了の影響等について伺います。

一点目は、OSサポート終了に伴う全庁的な影響と対策についてであります。

平成25年4月22日付で総務省自治行政局地域情報政策室よりWindowsXP等のサポート期限の満了に係る対応についての注意喚起の連絡があったと聞いております。

この注意喚起の内容を見ますと、地方公共団体においては、来年4月9日までに、サポートが継続しているソフトへ速やかに移行し、期日までに移行が完了しないパソコンについては、使用停止を検討するなど、適切な対策を講じる様、取り組んでほしいという内容です。

そこで、根室市全体として現状OS WindowsXPやOffice2003、InternetExplorer6といったサポート終了製品の利用状況がどのようなになっているのか、来年4月までにどのような対策を講じられるのか、現時点におけるお考えをお伺いいたします。

二点目は、市立根室病院新システムに2014年サポート終了となるOSを採用した理由と今後の対応についてあります。

WindowsXPのサポート終了という情報は、早くからあったわけであり、このような状況になり得ることは想定できたものと判断しますが、そうした中で、本年2月に市立根室病院はWindowsXP OSを採用し、医療情報システムを新規導入したわけです。

何故、2014年サポート終了となるOSを採用されたのか、また、国から注意喚起が示されているなか、個人のプライバシー保護に最大限の配慮が必要な医療情報システムの運用を行う上で、今後、どのような対策、対応を講じなければならないのか、市長のお考えをお伺いいたします。

三点目は、情報システム構築・運用のためのチェック機能についてであります。

市立病院には医療情報室がありましたが、組織の改編のなかでなくなりました。

新病院の情報システム整備には約3億5千万円を要し、建設に含まれるネットワーク系費用を含めば4億円を超える事業です。これだけの規模のシステムを管理する専門部門がなくなったことには疑問を感じております。

新病院のシステム導入に関しては、準備作業自体が大幅に遅れ、電子カルテの導入も途中で断念、結果、カルテ搬送上の動線や人員配置にも影響、しわ寄せがあり、患者待ち時間の増窓口委託人件費増等マイナス影響がでています。

更には、市全体の情報システムのチェック機関である根室市電算処理運営委員会への報告自体が軽視されるなど、様々新病院のシステム導入には問題があったわけです。

病院のこのような状況、実態も、本来であれば、市の情報管理部門がチェック機能をはたしていれば、ある程度は未然に防ぐことができたはずですよ。

今般のOSサポート終了対策も情報管理課が窓口となり、早期に、全庁的な調査作業を御粉べきであったものと考えます。

今一度、情報システムの行政における役割を再確認していただき、システム管理・運用のためのチェック機能、体制の充実に努めるべきと、私は考えますが、市長のご所見をお伺いいたします。

質問の終わりは、新長期総合計画策定作業についてであります。

4月19日新総合計画策定基本方針が示されました。

内容を読ませていただきましたが過去の取り組みと計画策定の基本姿勢、計画策定体制や実施方法等々作業内容に、然程、大きな違いが無いように感じました。なによりも、現行総合計画の検証及びその分析がない事に疑問を感じます。反省を踏まえ次のステップへ進むべきではないでしょうか？

社会経済情勢、人口動態、環境問題、ライフスタイルの変化や地方分権等行政そのものの役割が変わりつつある等々、様々環境が大きく変貌している訳ですから、計画策定作業の前段となる、市を取り巻く環境、市の現況に関する調査分析等を行い、それらをベースに計画策定

作業の基本的な進め方について、全庁的に突っ込んだ論議を行っておく必要あるのではないのでしょうか？

担当部署以外の職員の係わり十分なののでしょうか？

全庁的な取り組み、職員全体に見える取り組みとすべきではないのでしょうか？

また、他計画（個別計画）等との調整、整合性の確保や健全な財政運営といった視点から行政改革及び長期財政計画との整合性についても、新総合計画の実行性確保のためにも事前検討が必要と考えます。されには、大きく、また、想像を超えるスピード変化する社会経済情勢、その影響を受ける根室市、市民を取り巻く様々な環境の変化を考えますと、10年という計画期間の長さにも疑問を感じるどころです。加えて、計画の進行管理（評価）の仕組みや計画と実態に乖離がある場合の補正手法の構築なども計画策定作業の中で検討しておくべきであると考えます。

そこで新長期総合計画策定作業の進め方について、只今述べました点を踏まえていただき、

- (1) 第8期総合計画の検証作業について
- (2) 新長期総合計画策定手法とこれまでの策定作業との違いについて
- (3) 都市計画マスタープラン等各種計画とのリンケージについて
- (4) 計画期間と社会・経済環境の変化への対応について

以上の4点について市長のお考えお伺いし、壇上からの質問といたします。